

東條内閣
ノ成立

十月十六日近衛第三次内閣ハ、閣内意見不一致ノ結果總辭職ノ巴ムナ
キニ立廻リ同十八日東條内閣成立シ東條大使外務大臣ニ親任セラレ

キリ

新内閣ノ
交渉ニ對
スル方針

當時内外ノ情勢ハ極端且深淵ヲ極ムルモノアリ新内閣力如何ナルヲ
計リ以テ日米交渉ニ對シスルハ獨り國民一般ノミナラス全世界ヲ
舉テテ注視シ居リタム所ナリシカ、政府ハ夙ニ公正ナル基礎ニ於テ
日本國交關係ヲ對テ篤實交渉繼續ヲ決意シ組織^{五五}之範圍打開策ヲ考
究ニ着手セリ、東條大臣ハ先ツ二十日其ノ第一條々々就任放言中ニ
於テ

嘗て國外交ノ窮極ノ目標カ世界平和ノ維持増進ニ在ルハ勿論ナルモ、
事密^五國生存ニ關レ又ハ其ノ權威ニ關スル場合ニハ飽志毅然タル態

其ノ二

交渉ニ関
海内閣ノ

ハ其立

野村大使
宛中間
令

事 野村大使、香港ニ歸リ又ハ其ノ御免ニ關スル事令ニハ海軍部ニ
 管領表交ノ障礙ノ目録ニ對シテ、香港平議ノ議料第貳号ニ對シテハ、
 漢ノ
 英ニ對シテ、新領事館ハ、次ニ二十日其ノ第一號ニハ海軍部中ニ
 ハ日本國交商運ニ作ル難支等語ニ對シテ、英意ノ海軍部ニ對シテ、
 英ニ對シテ、海軍部ニ對シテ、英領事館ハ、九月二十五日英領事館ニ對シ
 當領内務ノ對英ハ、英領事館ニ對シテ、英領事館ニ對シテ、英領事館ニ對シ
 事ニ立至リ、同十八日、英領内閣立シテ、英領事館ニ對シテ、英領事館ニ對シ
 度ヲ以テ是ヲ拘束シ以テ、英領事館ノ先聲ヲル歴史的使命ノ達成ヲ圖ラ
 サルヘカラス
 ト總ヘ交渉ハ、英領事館ニ對シテ、英領事館ノ讓歩ニハ自ら讓度アルコトヲ
 明ニシ、次ニ二十一日、野村大使ニ對シテ、不取敢ノ措置トシテ
 新領事館ニ於テモ、公正ナル英領事館ノ下ニ於ケル英領事館ニ對シテ、英領事館
 ハ、前内閣ト具ル所ナク、英領事館ノ反省ヲ俟ツ英領事館ニ存リ、英領事館方ト
 シテハ、英領事館方ハ、英領事館ノ反省ヲ俟ツ英領事館ニ存リ、英領事館方ト
 シテハ、英領事館方ハ、英領事館ノ反省ヲ俟ツ英領事館ニ存リ、英領事館方ト
 尖トナク、九月二十五日、英領事館方案ニ對シテ、英領事館ノ對案ヲ至急求
 ムルコトニ、英領事館方ニ對シテ、英領事館方ニ對シテ、英領事館方ニ對シテ、
 訓令セリ

其ノ二

外 務 省

